 ©2013 筑波大学生物学類

特集：卒業

生物学類学位記授与式卒業生謝辞

井原　希（筑波大学 生物学類 4 年）

卒業式を終え、ふと気がつくとひと月近くが経ちました。この間、肩書きこそ大学院生になったものの、それ以外は以前と何も変わらない研究室生活を送り、果たして本当に卒業したのだろうか？と正直思ったりもします。その一方で、新たな地で活躍する友人の話を耳にすると、卒業という 2 文字が現実のものであるということを強く感じます。

この度、つくば生物ジャーナル編集委員の方々のご厚意で本ジャーナルへの掲載という貴重な機会を頂きましたことを、深く感謝いたします。この機会に今一度大学 4 年間を振り返るとともに、同期、そして生物学類のみなさんの今後更なる活躍を期待しながら、学位記授与式で述べさせて頂いた謝辞の内容を、ここに記させて頂きます。

生物学類学位記授与式謝辞

寒い冬の季節が過ぎ、例年より早い桜の開花の便りがここつくばでも聞かれるようになったこの日、私たちは生物学類を卒業します。本日はお忙しい中、私たち卒業生のために学位授与式を執り行っていただきまして、本当にありがとうございます。

四年前の春、私たちは辛い受験戦争を乗り越えた解放感と、新たな生活への希望と期待、少しの不安を胸に、このつくばの地にやってきました。それから四年、過ごした時間は同じでも、講義にサークル、バイト、学校行事、ボランティアなど、その時間の使い方は人それぞれ異なったと思います。しかし、今思い返すと、過ごしてきたその一つ一つの時間が凝縮され、まるでこの四年間が一瞬の出来事であったかのように思われます。

数多くの出来事があった中で、生物学類ならではのものとして、個性豊かな私たちに負けないくらいの個性を持ち、生物への愛にあふれている先生方による、講義や実験・実習の数々があると思います。

基礎生実験では、徳レポ、無限レポートに代表される数々のレポートに苦しむ一方、スンクスと戯れ、ザリガニやカエルを解剖しながら、生物学を学ぶことの醍醐味を味わいました。下田や菅平での実習では、きれいな自然に囲まれた中、そこでしか出会えない生き物に出会い、他では経験することができない多くのことを経験することが出来ました。

そして、数々の経験をしてきたその隣には、いつも仲間がいました。辛いとき、困ったときには共に悩み考え、うれしいとき、楽しいときにはそれを分かち合い、時にはけんかしながらも築き上げてきた、仲間との絆は、これから先も決して失われることなく、続いていくことと思います。

そして今、私たちは大学卒業という一つの節目を迎えます。この日を境に社会に出ていく人、大学院に進学する人など、進む道は人それぞれ異なりますが、この同じ時を同じ場所で過ごした仲間との思い出や、この四年間で学び、得た多くのものを糧にして、今後一人ひとり、自分で選んだ道をしっかりと歩んでいきたいと思います。

最後になりますが、私たちが今日この日を迎えることができたのは、これまでさまざまな場面で私たちを温かく見守り、時には厳しく、時には優しくご指導して下さった先生方をはじめ、事務員の皆様、先輩方、後輩達、そして家族の支えがあったからです。そこで、お世話になったすべての方々に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。四年間、本当にありがとうございました。

Communicated by Takeo Hama, Received April 18, 2013.